

「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」等の受賞者を紹介します。

本表彰事業は、海をきれいにするための奉仕活動を顕彰し、国民に海への親しみを深めてもらい、海の利用・開発、海洋環境保全への理解と協力を得て海洋・海事思想のより一層の普及を図ることを目的として、毎年、国土交通大臣及び各地方整備局長等が行っているものです。

以下、平成26年受賞者的一部を紹介するとともに、地方整備局長及び事務所長表彰受賞者的一部について、その取り組み内容を紹介させていただきます。

平成26年 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰等受賞者(港湾海岸関係)

● 国土交通大臣表彰

小名浜海洋少年団（福島県）	ひたちなか市立平磯小学校（茨城県）
日立市立久慈小学校（茨城県）	旭市立飯岡小学校（千葉県）
銚子市立第二中学校（千葉県）	伏木地区環境美化推進委員会（富山県）
四日市港霞ヶ浦地区交通安全対策協議会（三重県）	和歌山市立加太小学校（和歌山県）
カブトガニ保護少年団（岡山県）	庵治漁業協同組合女性部（香川県）
福岡市立志賀中学校（福岡県）	株式会社西の丸一善の会（宮崎県）

● 地方整備局長表彰

船越地区老人クラブ連合会（秋田県）	鶴岡市立 由良小学校（山形県）
酒田市立 浜中小学校（山形県）	県立勿来自然公園を守る会（福島県）
千葉県立安房拓心高等学校（千葉県）	鎌倉マリンスポーツ連盟（神奈川県）
蜃気楼の見える海岸をきれいにする会（富山県）	NPO 法人 Be – club（静岡県）
田原市立野田小学校（愛知県）	淡路市立 浦小学校（兵庫県）
南海フェリー株式会社（和歌山県）	住友ゴム工業株式会社（兵庫県）
特定非営利活動法人 グリーンベイ OSAKA（大阪府）	阿月地区環境衛生推進員会（山口県）
神島寺間・見崎里浜づくり（岡山県）	今治市立岡村小学校（愛媛県）
中土佐町立久礼中学校（高知県）	黒潮町立佐賀中学校 生徒会（高知県）
特定非営利活動法人 青少年共育活動協会（山口県）	唐津市立名護屋小学校（佐賀県）
唐津市立鏡中学校（佐賀県）	NPO 法人 コミュニティ時津（長崎県）
一般社団法人 天草宝島観光協会牛深支部（熊本県）	

● 中部地方整備局四日市港湾事務所長表彰（優良工事表彰：社会貢献）

山野・中村経常建設共同企業体（三重県）

わたしたちのふるさと『由良』の海を大切に ～由良海岸清掃ボランティア活動～

鶴岡市立 由良小学校（山形県）

本校は、鶴岡市の南西、由良海岸に沿つてある集落が学区となっていますので、児童の生活風景の中には当たり前に『海』『浜』があります。しかし、時代の流れにより保護者の職業も多様に変化し、漁業や民宿等に関わっている家庭は少なく、概して海から遠ざかりつつある生活になっているのが現状です。

本校では、由良地区の恵まれた自然環境を生かした体験活動を通して、豊かな感性を持ち、主体的に行動し、ふるさと『由良』を愛する心が児童に育っていくことを願い、教育実践を積んできました。

その1つが、ふるさと由良をフィールドにした環境教育『全校ボランティア活

動』です。これは、観光資源でもある由良海岸において、海水浴シーズンを前に、漂着ゴミに関することや環境美化の意義等について学びながら実際に海岸清掃を、学校行事と位置づけて活動しているものです。

児童の環境保全の心を育てるねらいで平成元年から継続して行ってきたこの海岸清掃活動が、県内外からの観光客や海水浴客が気持ちよく過ごせる環境整備につながり、児童の地域貢献となっています。この活動をきっかけに、海が賑わう夏に家族を誘ってみんなで海岸清掃に取り組む家庭も出てきており、ふるさとの海に関心を持ち、誇りに思う心が児童

の中に広がってきてているようで、嬉しく思っています。

少子化の波により今年度で閉校となる本校ではありますが、これまで活動を継続してきた中で培われてきた『由良』の自然を愛する心、大切に守っていきたいと思う心をもって、これからは地元住民の一人として地域活動に引き継いでほしいと願っています。



鎌倉マリンスポーツ連盟は、鎌倉の海の安全と秩序を守り、掛け替えのない海の景観や資源を守りつつ、マリンスポーツを通じて老若男女に海のすばらしさ、大きさ等を伝えるとともに、歴史ある鎌倉に調和、強調を意とした普及・発展をはかることを大前提として、各マリンスポーツ関連の業者または、愛好者を集めた団体です。

1980年にウインドサーフィン業者を中心に鎌倉マリンスポーツ連盟設立。鎌倉漁業協同組合、鎌倉市役所、鎌倉警察、消防、県土木事務所、海上保安部などと協力関係をもち、海の安全普及活動体制を整え、以後34年間、鎌倉の海の安全を守り続けている。

年に2回全体的なビーチクリーンや各ショップ、クラブが独自にビーチクリーンを行ったりしている。

また、台風後等は自主的にマリンス

ポーツ爱好者達がビーチクリーンに努めしており、鎌倉の海は自然な美しさが今も保たれている。

しかしだひとつ問題は、ビーチに打ち上げられた海草を処理するため、砂の

中へ埋めてしまう事だ。

長年このような処理をしているため、埋めたところの砂はヘドロ化して掘り返すと真っ黒になって臭いにおいがする。何か他の対策を考えもらいたい。



タウンニュース鎌倉版より

みんなが集うきれいな浜辺へ

蜃気楼の見える海岸をきれいにする会（富山県）

私達の活動をしている富山県魚津市の大町海岸は蜃気楼の見える海岸として全国的に有名であり、近隣の人には螢鳥賊が身投げする浜もあります。大正7年

(1918年)に当時の寺内内閣総辞職の原因を作った米騒動が始まった米蔵もこの浜にあります。

この海岸も最近まではテトラポットが敷かれたごみ捨て場と化していました。しかし近年の環境意識の高まりにより、階段護岸となり、町内会の県への要望が叶って砂浜が残り素足で海に入る浜になっています。親水性が保たれたことで、散歩や憩いの場所が増え僅かにできた草地は時々波をかぶるはずですが浜昼顔、浜エンドウ、浜旗棹、浜大根、ハマナスなどの海浜植物に加えいつの間にかタチアオイやビロードモウズイカまでも花を咲かせています。

しかしこの海岸に毎日自然や人間が海に送った贈り物が届きます。海底から上がる海藻、川からの流木や大量の葦、枯草

等の自然物。肥料袋等のビニール、大小様々なペットボトル、空き缶、空き瓶等の人造の物にはハングル文字が混ざることもあります。

憩いの場所の犬の散歩は犬の糞の放置もみられ、夕涼みには花火の燃え殻の放置があります。

この様なゴミを放置しきれず、時折り片付ける人もいらしたが追いつかず、多くの人が定期的にやる必要があるということです。1999年の海の日をもって会を立ち上げ厳冬期の1、2月を除く毎第3日曜日に1時間の清掃活動をはじめました。翌年の7月から地元大町小学校の生徒さん、先生方も参加して頂き会に活気がでてきました。

発足当時のメンバーは残念ながら5名が亡くなり顔ぶれも変化していきますが、この会が15年も続いているのは、会員がこの海岸を愛していること、それと毎月の活動を強制せず、用事のある人は遠慮なく休むことに加え、毎朝のように見廻ってゴミを纏めて頂ける通称「浜守」さんが順番に現れていることです。人々のモラルが向上して海岸にゴミが無くなり会の自然消滅する日を待ちながらいま少し活動を継続したいと願っています。

終わりになりますが、今回の表彰を頂くにあたり、伏木富山港湾事務所の方々に大変お世話になりました。



H14年 海の日の清掃風景



成果を前に共同参加の大町小の児童達



蜃気楼の出現

『未来に伝えたい想いがある』

NPO法人 Be-club（静岡県）

NPO法人Be-clubは、何事にも無関心になりやすい若年層や市民に、イベントを通じて郷土への想いや清水の素晴らしさを伝えていきたいと、1986年、イベント研究政策集団Be-clubとしてスタートしました。

2005年8月からは清水港を中心に静岡市等において、イベントを通じて、街の活性化、人づくり、街づくり、スポーツ普及、伝統・文化の継承、環境の保全、青少年の健全育成に寄与することを目的とし、NPO法人の認証を受け、クリーンアップ活動や環境教育、海辺の賑わいの

創出を事業の柱とし、活動を展開してきました。

Be-clubと海とのつながりは今から15年前になります。1999年の清水港100周年イベントにブースを出展した際、海上に浮いていたゴミや周辺のゴミを仲間たちと拾いはじめたのがきっかけとなり、2001年からは“SEA DREAMS”として、毎年海の日には「海に感謝しながらみんなで祝おう」とクリーンアップ活動やビーチゲームなどを行ってきました。

2006年からは、“SEA DREAMS PROJECT”として、春・夏・秋のクリーンアップ、イ

ベントやLIVE、事業報告会などとともに、静岡県外の小中学生に対し体験学習なども行っています。

Be-clubが最も伝えたいメッセージの中に『未来に伝えたい想いがある』という言葉があります。心の中では誰もがわかっているけれど、なかなか表現しにくい気持ちの部分『思いやり・やさしさ』などを活動を通じてひとつでも多くの形にして残していきたいと思っています。



ライブイベント



ビーチゲーム



26年春 海のクリーンアップ(248名参加)



工事を通じて地域に貢献しています ～平成26年度 優良工事表彰(社会貢献部門)～

山野・中村経常建設共同企業体（三重県）

○はじめに

津松阪港海岸は、昭和28年に来襲した台風13号と昭和34年の伊勢湾台風により壊滅的な被害を受けたことから、昭和28年から38年にかけて現在の海岸堤防が整備されました。その後約半世紀が経ち堤防にも老朽化が目立ってきたため、平成4年度から松阪地区、三雲地区、香良洲地区、津地区（賛崎工区）の堤防改修が国土交通省により実施され、私たち地元建設業者も改修工事に携わってきました。

津地区（栗真町屋工区）では平成24年度に新規に工事着工され、最初の重要な工事を山野・中村経常建設共同企業体（以下、当JV）で受注させていただきました。



栗真町屋工区（平成25年度完成箇所）

工事を進めるにあたり、発注者との打合せや地元説明会を通じて本工事が地元から非常に注目を集め期待度が高いことを身をもって感じたことから、施工業者として物（堤防）を作るだけでなく、地域の皆様方とのコミュニケーションが何より重要であると考え、これまで様々な方法や工夫によって地域との信頼関係を築く努力をして参りました。

○地域貢献への取り組み

栗真町屋海岸では不法投棄等が原因で環境悪化が進んだことから、現在、「素足で走れる海岸にしよう！」をテーマに、NPO法人町屋百人衆・三重大学環境ISO委員会を中心となって2ヶ月に一度、清掃活動が実施されています。

当JVでは、地元住民への工事説明に留まらず前述の海岸清掃活動や工区周辺の清掃



海岸清掃活動の様子

活動にも積極的に参加し、またその取り組みを工事完了後も継続し行っていることなどが認められ、地元自治会から感謝状を頂戴いたしました。

それらの実績が評価され、平成26年度港湾関係表彰の社会貢献部門として四日市港湾事務所より事務所長表彰を頂戴いたしました。

引き続き地域の安全、安心に貢献できるよう、微力ではありますが努力して参ります。



地元自治会からの感謝状



表彰式の様子

大阪湾に大きな森を創り出す活動

特定非営利活動法人 グリーンベイ OSAKA（大阪府）

ほとんどが埋立地で、緑があまり見られない大阪湾岸ですが、海のそばに自然に近い森を創り出そうという活動を行っているのが、私たち特定非営利活動法人グリーンベイOSAKAです。

大阪府堺市の臨海地区にある堺第7-3区は、その昔、産業廃棄物の最終埋立処分場でした。埋まっているのは、残土、コンクリートガラ、スラグ等の製鉄くず、自動車のシュレッダーストなどで、日本の高度成長を支えたビルやクルマの残滓です。これらの産業廃棄物の上に覆土が行われ、年月が経つて安定したこの土地に、自然に近い森を創り出そうというのが私たちの活動です。

私たちが行っている植樹の方法は少しユニークなものです。ユニット混植法、あるいは生態学的混植法といって、直径3mの円を少し離して配置し、その円の中に14種類の

樹木の苗木を密集させて植えます。円と円の間には苗木を植えません。等間隔に苗木を植えないこの植樹法は、自然林の中で大木が朽ちて倒れた状態を再現しています。大木が倒れた後には様々な樹木の種子が芽吹き、生長するわけですが、それぞれが競い合って伸びる中で競争に勝った樹木がより早く大きくなり生長するという考え方です。14種類の中で1本だけ大木に生長すれば良いという新しい植樹法なのです。

私たちは2008年から植樹を開始してすでに6年になりますが、年に植樹会を1回、苗木を雑草から守るために草刈りを2回行っています。6年間で8,750m²に4,900本の苗木を植えましたが、広い植樹地に比べれば、まだまだほんの一部分にすぎません。しかし、すでに見上げるくらいの高さまで生長し、そろそろ林と呼べるくらいになった初期の植

樹地を眺めていると、将来の鬱蒼とした森が見えてくるような気がして、植樹や草刈りで流した汗も報われると思えるのです。



植樹会



初期の苗木の生長



ユニット混植法



植樹会後の集合写真



植樹会全景



草刈り会



植樹会